連載

金融機関の新潮流〈第 3 回〉

電子地域通貨で地域活性化をめざす飛騨信用組合

古江　晋也

要旨

岐阜県高山市に本店を置く飛騨信用組合は、人口減少が進行し地域経済、地元商店が衰退する恐れがあるとの危機感から、2011 年 9 月に地元消費を促す「さるぼぼ倶楽部」の取組みを導入、17 年 12 月にはスマートフォンアプリを使った電子地域通貨「さるぼぼコイン」のサービスを開始した。さるぼぼコインの普及は、利用者や加盟店をどれだけ拡大できるかがポイントとなるが、その基盤を支えているのが同倶楽部でもあり、今後は外国人観光客が利用することを見据え、アプリの多言語化対応も予定している。

はじめに

岐阜県高山市に本店を置く飛騨信用組合（2017 年 3 月・預金積金残高 2,459 億円、貸出金残高 1,025 億円、役職員 180 人、16 店舗）は 17 年 12 月、スマートフォンアプリを使った電子地域通貨「さるぼぼコイン」（以下、コイン）のサービスを開始した。

同サービスを始めた理由は、人口減少が進行し、金融業界が激変する中、従来型の預金、貸出、為替業務だけでは、生き残ることが難しく、①積極的にフィンテックを取り入れることで、顧客への利便性を高めたいという思いと、②地域金融機関として地域経済の活性化に貢献したいという強い使命感があったからである。

コインは、金融機関による全国初の取組みとして注目が集まっているが、地域経済活性策という観点からは、地元消費を促す「さるぼぼ倶楽部」（以下、倶楽部）という取組みも実施しており、この倶楽部の仕組みがコインを支えている側面もある。本稿では、倶楽部とコインで地域経済の活性化をめざす飛騨信用組合の取組みを紹介する。

地元消費を促す「さるぼぼ倶楽部」

飛騨信用組合が倶楽部を導入したのは 11 年 9 月からである（注1）。導入した背景は、大型チェーンストアが進出する中、地元商店が衰退する恐れがあるとの危機感が募ってきたからであった。

飛騨信用組合本店

本店内の様子

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます

そこで地元消費を促すために考えた仕組みが図表 1 である。飛騨信用組合は希望する組合員に会員証を発行する（①②）。会員は会員証を提示すると、「ファミリー店」と呼ばれる倶楽部に加盟している地元商店から各種サービスを受けることができる（③④⑤）。

一方、同組合はファミリー店の店舗情報や各種サービスが記載されたカタログやチラシなどを地域に配布（⑥）するとともに、ファミリー店に対するマーケティングなどに関連した研修（⑦）なども実施する。

また、同組合は、例えば定期預金の景品（頒布品）として、ファミリー店で利用できる割引券を発行することで地元消費を促している。倶楽部は、発足から 7 年が経過した現在、ファミリー店が 400 社超、会員は 3 万人にまで拡大している。

（注1）さるぼぼ倶楽部の内容については、古江晋也[2014]「地域再生と協同組織金融機関」『農林金融』農林中金総合研究所を参照している。

電子地域通貨「さるぼぼコイン」

割引券がファミリー店で用いられるようになると、それは「地域通貨」のような役割を担うようになる。そしてこの割引券を電子地域通貨に置き換えてみるという発想は、自然の流れでもあった。

加えて、高山市は近年、訪日外国人観光客が急増している地域であるが、「クレジットカード決済のできる店舗が少ない」ということが課題となっていた。このことについてはさまざまな要因があるが、クレジット決済端末機が高額なことと、加盟店手数料の負担が大きいことがあげられる。そのため、端末機の導入を不要にし、手数料を大幅に引下げることができれば、地元商店の利便性は飛躍的に高まることになる。コインはこの課題に挑んだといえる。

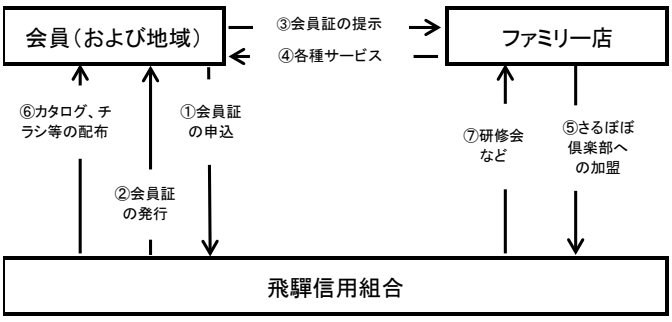
ただし、金融機関による電子地域通貨の発行は前例がなかったため、さまざまなハードルがあった。例えば、「さるぼぼコインは現金なのか、仮想通貨なのか」「仕組みをどうするのか」といったことである。

そこで、これらの課題をひとつずつ解決するため、組合内ではプロジェクトチームが創設されるとともに、システム会社、法律事務所、コンサルティング会社が相互に連携し合うことで、短期間のうちに仕組みづくりが完成し、17 年 5 月に電子地域通貨の実証実験が開始された。

組合職員など 240 人が参加した同実験では、1 人当たり 3 万円の電子地域通貨が支給され、実際に地元の飲食店で利用した。実験期間は 8 月までの 3 ヶ月間で、セキュリティや運用などの技術的な課題や改善点などが検討された。

コインの取り組みについては当初、ブロックチェーン技術の適用も考えられたが、開発期間が長期になるなどの理由から、サーバ管理型の電子地域通貨として、同年

図表1 「さるぼぼ倶楽部」の概念図



（出所）古江晋也[2014]「地域再生と協同組織金融機関」『農林金融』農林中金総合研究所,10頁。

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます

12 月 4 日にサービスを開始した。

さるぼぼコインの枠組み

図表 2 はコインの概念図である。コインを利用したい利用者 A は、アプリストアからアプリをダウンロードする（①）。そして利用者 A は、飛騨信用組合の窓口でコインのチャージを行う（②）。コインは現金とみなされ、組合は 1 コイン＝1 円で発行する（③）。コインがチャージされると利用者 A は、加盟店で商品やサービスを購入する（④）。組合は利用者にチャージ額の 1%をポイントとして提供しており、ポイントもコインとして利用できる（1 万円をチャージすると 100 コインがポイントとしてもらえる）。そしてコインの大きな特徴は、無料で組合が作成する二次元コードを設置するだけでよく、加盟店にはクレジットカード端末などの導入コストがかからないことである。

コインを受け取った加盟店 A が組合に換金を依頼（⑥）すると、組合は加盟店の預金口座に入金する（⑦）。換金については、換金額の 1.5%が手数料として徴収される。ただコインは、加盟店同士の決済（⑧⑨⑩⑪）や、利用者同士の決済（⑫）にも対応している（加盟店同士の送金手数料は 0.5%であるが、利用者同士の手数料はゼロである）。

一方、飛騨信用組合は、加盟店の集客力強化の一環としてアプリ内に店舗情報を無料で掲載するほか、サービス機能の拡充にも努めている。具体的には 18 年 3 月に、飛騨信用組合の口座からチャージ機能を追加し、残高上限を 200 万円まで拡大したり、地域住民の利用を促進するため、割り勘機能を追加するなどである。

今後は、国内観光客への利用促進を図るため、クレジットカードからのチャージ機能の追加や、外国人観光客への利用促進を図るため、多言語化への対応をめざしている。

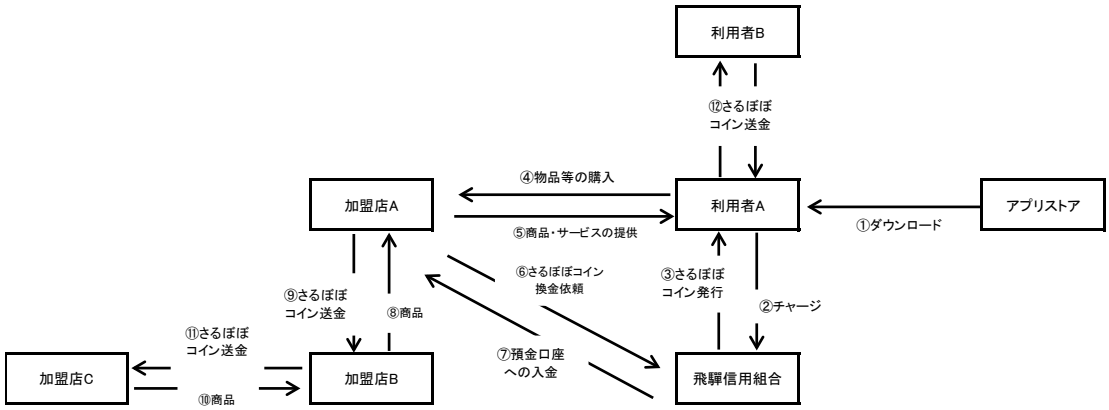
さるぼぼコインの認知度を高める

以上が、コインの仕組みであるが、コインの成功を左右する「肝」は、加盟店を拡大させることに他ならない。

そこで飛騨信用組合は、まず本部が中心となって、多くの高山市民が利用する企業やブランド力のある企業を中心に加盟店に登録してもらうように依頼した。

また、ブランド戦略部長の水口昌己氏

図表２ 「さるぼぼコイン」の概念図



（出所）飛騨信用組合資料

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます

が「加盟店を拡大する上で重要な役割を担ったのはさるぼぼ倶楽部」と話すように、ほとんどのファミリー店が、コインの加盟店になったという。中には、「ここでさるぼぼコインが使えますか」と顧客からたずねられたことがきっかけで、加盟店になりたいと申し出る商店もあった。

18年4月15日現在、加盟店は449ヶ店あり、申請している店舗も多くある。加盟店がコインを利用できるようになるためには、組合が二次元コードを発行し、パソコンで利用登録を設定するという簡単な作業で完了するが、加盟店申請が短期間に急増したことと、設定以外にも従業員にコインの仕組みや利用法を周知させる必要があるため、導入に若干の時間がかかるという。一方、飛騨信用組合はコインの認知度を向上させるために次のようなイベントなどを行っている。

○サービス開始時から18年3月までの期間、コインをチャージするとポイントが2倍になる。

○地元ゴルフ場のホールインワン賞のスポンサーとなり、大きな看板を設置する。

○地元企業等の新入社員が、飛騨信用組合を給与振替口座に指定すると、景品として図書カード、もしくはコインがもらえる。

○地元のスキー場の一日リフト券をコインで購入すると、割引価格となる。

○地元スーパーでコインチャージを行うと、たまごが1パック10円で購入できる。

さらなる普及を目指して

近年、フィンテックが急速に発展する中、地域通貨や仮想通貨にも注目が集まっている。しかし、これらの取組みが存続するかどうかは、利用者と利用できる店舗（仮想店舗を含む）をどれだけ拡大できるかによる、といっても過言ではない。そのためコインでは、顧客の要望を取り入れ、一部のチェーンストアでも利用することができるようにしている（倶楽部のファミリー店は、地元企業や商店しか加盟できない）。

高山市商工観光部観光課によれば16年の外国人観光客数は46万1千人（宿泊ベース）であり、インバウンド効果が最も注目されている地域のひとつである。そうした中、アプリの多言語化によるコインの普及は、地域社会のみならず、金融機関もインバウンド需要を取り込むことができる第一歩にもつながり、飛騨信用組合の今後の取組みに注目が集まる。

水口昌己・ブランド戦略部長

さるぼぼコインの二次元コード

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます